

蝦夷三官寺

厚岸町 国泰寺
有珠市 善光寺
様似町 等澗院

北海道遺産に選定

『北海道遺産』は、次の世代に引き継ぎたい北海道民の宝物を守り・育て・活用することを目的に、1997年に『北海道遺産構想』としてスタートしました。2001年の第1回に25件、2004年の第2回に27件が選定され、この度の第3回北海道遺産選定で新たに15件の選定がなされました。その中に、厚岸町の国泰寺が『蝦夷三官寺』の一つとして名を連ねることになりました。



厚岸町『国泰寺』



伊達市『善光寺』

様似町『等澗院』



蝦夷三官寺位置図

蝦夷三官寺とは

江戸幕府が1804(文化元年)に建立した寺院、アッケシの国泰寺(厚岸町)、ウスの善光寺(伊達市)、サマニの等澗院(様似町)、これら3つの寺院(蝦夷三か寺)の通称として広く親しまれてきたのが『蝦夷三官寺』という呼び名です。国泰寺は、徳川家康の片腕として辣腕を振るった金地院崇伝の臨済宗金地院の末寺です。善光寺は、徳川家の菩提寺である浄土宗増上寺の末寺、等澗院は、家康の政治顧問であった天海の天台宗寛永寺の流れをくむ寺院です。

江戸時代の鎖国状況下、蝦夷地は北方地域との最前線にあって、諸外

国との境界の地でもありました。そのため、度々異国船が出没し、蝦夷三官寺は、それら異国船の退散や国家の安全を祈願する役目を負っていました。また、本州などから蝦夷地へ移り住んだ人を弔うため、さらには先住民であるアイヌ民族への仏教布教も重要な役割として担っていました。各寺院がアイヌ民族に対して仏教を布教したことは、国泰寺所蔵の『日鑑記』と呼ばれる文書資料や善光寺所蔵のアイヌ語と日本語が併記された版木(ともに国指定重要文化財)などからも伺い知ることができます。

本州から蝦夷地に渡った人たちの心のよりどころとなる、葬送儀礼をつかさどるとともに、本州の仏教文化とアイヌ民族(文化)との異文化接触を経験し、さらには、国家の安全を祈願するなど、外交政策上からも大変、特異な歴史を有する寺院であると言えるのです。

『北海道遺産』は、次の世代に引き継ぎたい北海道民の宝物を守り・育て・活用することを目的に、1997年に『北海道遺産構想』としてスタートしました。2001年の第1回に25件、2004年の第2回に27件が選定され、この度の第3回北海道遺産選定で新たに15件の選定がなされました。その中に、厚岸町の国泰寺が『蝦夷三官寺』の一つとして名を連ねることになりました。

国泰寺とは

国泰寺(鎌倉五山派景運山国泰寺)は臨済宗の寺院で、ロシアの南下・異教の侵入・場所請負制度の弊害など、北辺の危機が叫ばれる中、建立されました。当時は、北方世界への扉が大きく切り拓かれ始めた時代です。寺院建立以前のアッケシには、北方探検家として名高い最上徳内翁



中門にある葵の紋

や近藤重蔵も訪れ、この地を基点にクナシリ、エトロフへとその歩みを進めました。その歴史を今に伝えるものとして、現在の国泰寺境内には、最上徳内翁がバラサン岬付近に建立した神明宮の跡地(『神明宮跡』の標柱と説明板あり)や近藤重蔵が択捉島に『天日本恵土呂府』の標柱を立てた帰路、色丹島から持ち帰ったとされる色古丹松(町指定天然記念物)を見ることができま。

国泰寺の布教範囲は、現在の十勝管内から根室管内に至る地域と、さらに国後島と択捉島を含んだ大変広いものでした。また、寺有地も広く、厚岸湾に突出する半島の神明宮(厚岸神社の前身、1971(寛政3)年最上徳内翁の建立)の旧地を含む14四方の風除林が寺有地とされています。

ます。

現在、建物のほとんどが後代の改修を経ていますが、境内は江戸時代のたたずまいを今に伝えており、蝦夷地における特異な歴史的役割を果たした重要な寺として、1973(昭和48)年10月19日、『国泰寺跡』として国の史跡に指定されました。

また、境内地には、1842(天保13)年建立で、町の有形文化財にも指定されている『仏牙舍利塔』や、江戸時代、現在の宮城県石巻市から移植されたと伝わる、町指定天然記念物の『老桜樹』もあり、今でも桜の季節になると見事な花を咲かせ、訪れる人を楽しませてくれます。

町に残された貴重な資料

国泰寺には、『蝦夷三官寺国泰寺関係資料』と総称される国指定の重要文化財が所蔵されています。これは2005(平成17)年6月7日に、善光寺と等澗院の各資料とともに指定されました。善光寺は『蝦夷三官寺善光寺関係資料』、同じく等澗院は『蝦夷三官寺等澗院関係資料』という名称になっています。国泰寺の関係資料は、文書・記録類や経典類、器物類からなり、総点数は829点にもなります。その中でも、歴代住職らによって約60年間書き継がれた記録『日鑑記』は特に有名で、幕府

の蝦夷地政策や異国船来航などに関する記録にとまらず、地震や津波、畑作物の栽培、山菜の採取など、当時の生活記録を今に伝える大変貴重な資料と言えます。

また、布教範囲の各地域に住んでいる武士、商人、出稼ぎ人などが自ら署名し寄進した『大般若経六〇〇巻』(現存数は469巻)は、辺境の地における仏教に対する意識を垣間見ることができます。

今後は、『蝦夷三官寺』の素晴らしさを、地域の人たちはもちろん、3市町や各寺院とが協力、連携しながら、この歴史的資源の魅力を国内外に発信し、今まで以上に厚岸町の魅力の一つとして高めていきたいと思っています。



北海道遺産 第3回選定証授与式